



証券コード:7774

第13期(平成23年3月期)

# 第1四半期 決算説明資料

平成22年7月30日



株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング

<http://www.jppte.co.jp>

## 目次

---

❖ 事業概要	---	2
❖ 第13期 第1四半期の業績	---	8
❖ 株式分布・主要株主、PIR活動	---	14

# 事業概要

---

---

---

---

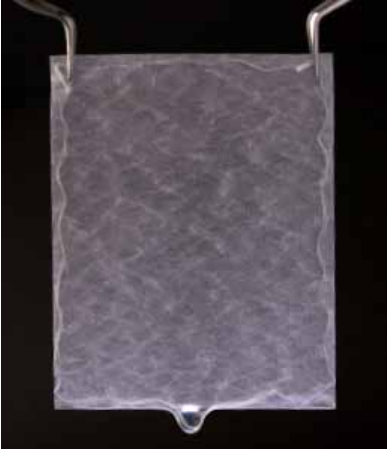

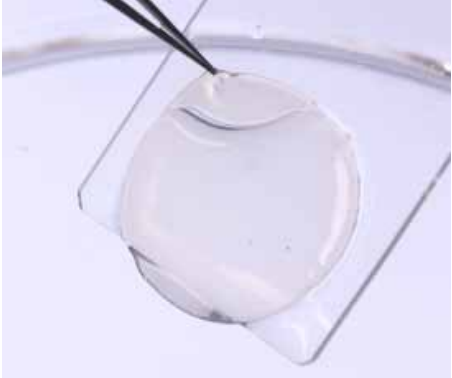
---

# 再生医療製品事業

## 自家培養表皮

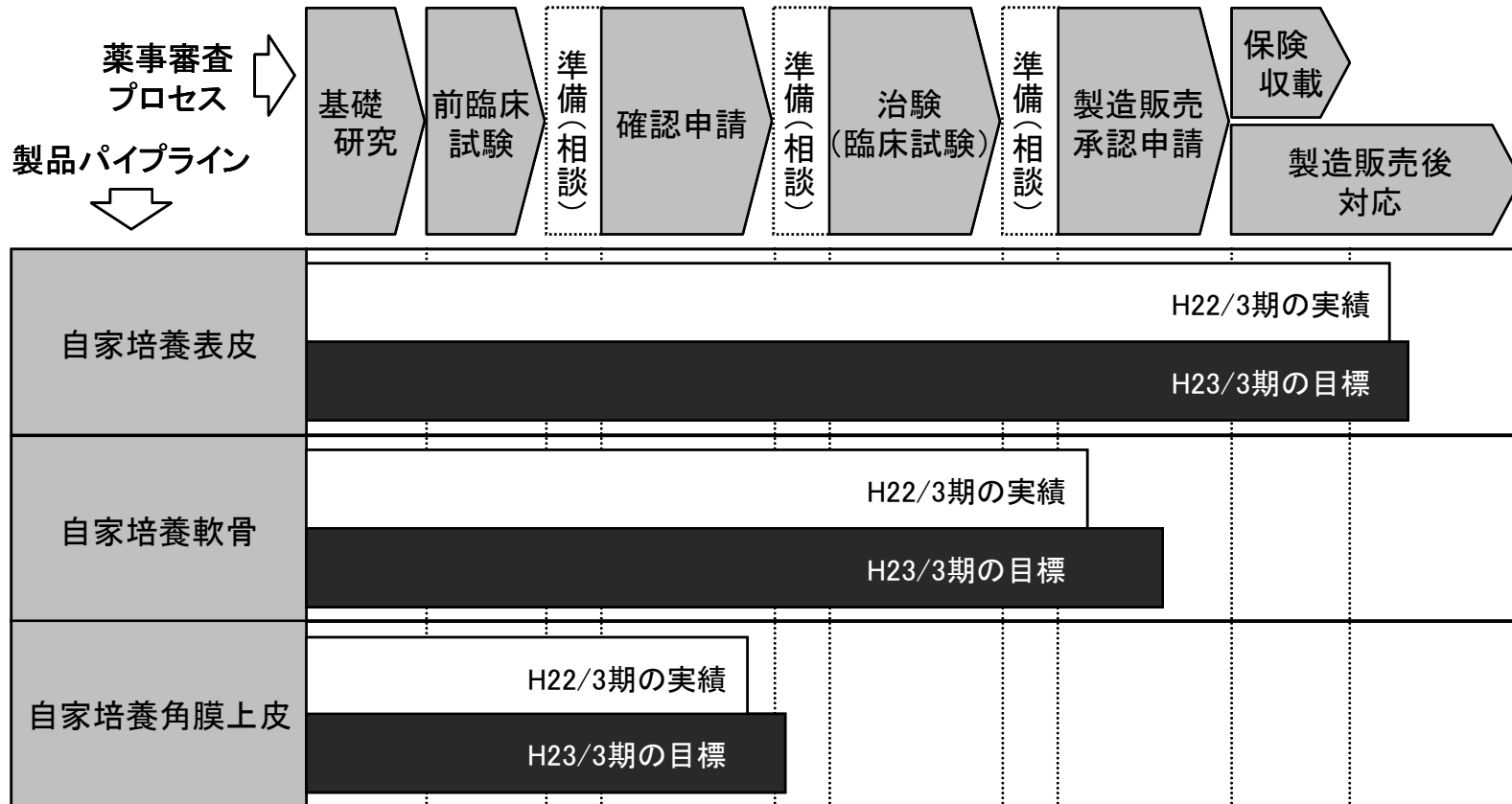
## 自家培養軟骨

## 自家培養角膜上皮

<p>開発製品の 外観</p>			
<p>基本技術 の導入元</p>	<p>米ハーバード大学 Howard Green 教授</p>	<p>広島大学 越智 光夫 教授</p>	<p>伊ベネトアイバンク、 伊モデナ大学 Michele De Luca 博士 Graziella Pellegrini 博士</p>
<p>適応疾患 (軟骨と角膜 上皮は想定)</p>	<p>重症熱傷 〔 深達性Ⅱ度熱傷創及び Ⅲ度熱傷創の合計面積が 体表面積の30%以上 〕</p>	<p>膝関節の全層軟骨欠損 〔 事故等の一過性の外力や スポーツ等の反復的な外力 による軟骨の欠損 〕</p>	<p>化学傷、熱傷、スティーブ ンス・ジョンソン症候群、眼 類天疱瘡、角膜感染症、 再発翼状片</p>
<p>進捗状況</p>	<p>製造承認を取得(H19.10)、 保険収載(H21.1)</p>	<p>製造販売承認申請 の提出(H21.8)</p>	<p>確認申請の審査中</p>

# 平成23年3月期の開発計画

❖ 自家培養軟骨と自家培養角膜上皮の開発を計画どおり進めることが肝要です。



出所) マイルストーン開示に係る事業計画について(平成23年3月期~平成25年3月期)(H22.5.14開示)

注) 確認申請、治験、製造販売承認申請の各プロセス直前の準備段階では、独立行政法人医薬品医療機器総合機構が提供する各種相談制度を活用することが推奨されている。但し、当該相談制度の活用は、必須ではない。

# 再生医療製品事業の主要な成果(1)

## 自家培養表皮

当期の進捗目標	第1四半期の成果(前提条件との対比、定性的情報を含む)
売上 363百万円	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 平成22年4月1日の診療報酬改定に伴い、ジェイスが保険償還される施設基準が見直されました。第1四半期終了時点では、約40施設でのジェイス採用が決定しました。</li> <li>● 予算は未達でしたが、受注件数は着実に増加傾向にあります。予算未達の主要な理由は、総受注の内、患者死亡等の理由により製造中止になった注文が約半数を占めたためです。</li> </ul>
製造販売後 調査等の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ジェイス承認の条件である製造販売後臨床試験が、多施設を対象として第1四半期から始まりました。</li> <li>● ジェイス承認の条件に従い、全症例を対象とした使用成績調査を進めています。</li> </ul>

## 再生医療製品事業の主要な成果(2)

### 自家培養軟骨

当期の進捗目標	第1四半期の成果（前提条件との対比、定性的情報を含む）
製造販売承認に向けた活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 医薬品医療機器総合機構から発出された照会事項に対し、回答を行いました。</li> <li>● 膝関節の全層軟骨欠損を想定する適応対象として、当社は交渉を行っています。</li> <li>● 平成24年3月期の上期までに承認を取得するという目標に変更はありません。</li> </ul>
製造・販売体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本社4階に追加製造設備を導入するための設計活動を開始しました。</li> <li>● 承認取得後の円滑な販売活動に向けて、価格戦略および販売体制に関する検討を開始しました。</li> </ul>

### 自家培養角膜上皮

当期の進捗目標	第1四半期の成果（前提条件との対比、定性的情報を含む）
確認申請への適合	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 確認申請の審査において医薬品医療機器総合機構から発せられた照会事項の一つである追加動物実験を進めました。</li> <li>● 一部製品仕様の変更を行うことを含めて、医薬品医療機器総合機構と協議を進めています。</li> </ul>

# 研究開発支援事業の主要な成果

## 研究用ヒト培養組織

当期の進捗目標	第1四半期の成果（前提条件との対比、定性的情報を含む）
売上 51百万円	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第1四半期の売上は、予算を達成しました。</li> <li>● JaCVAM(日本動物実験代替法検証センター)とOECD(経済協力開発機構)による皮膚刺激性試験の標準化作業が進んでいます。</li> <li>● 新製品の開発を進めました。</li> </ul>



## 第13期 第1四半期の業績概況

- ❖ 第13期第1四半期の売上高は、自家培養表皮ジェイスの売上増により、第12期第1四半期に対し、48百万円増加の73百万円となりました。
- ❖ 第13期第1四半期の当期純損失は、売上は増加したものの、営業・製造部門等の人員増強に伴い人件費が増加したため、第12期第1四半期と同程度になりました。

(単位:百万円)

	第12期 第1四半期累計期間	第13期 第1四半期累計期間	第12期比 増減
売上高	24	73	48
売上総利益	△3	△14	△11
販売費及び一般管理費	294	273	△20
営業利益	△297	△287	9
経常利益	△303	△296	7
四半期純利益	△304	△297	7

# 財務概況(1)

## 【資産の部】

(単位:百万円)

	第12期 平成22年3月末	第13期 平成22年6月末	増減
<b>流動資産</b>	1,644	1,664	20
現金及び預金	1,475	1,517	42
その他	169	147	△22
<b>固定資産</b>	1,546	1,524	△22
有形固定資産	1,498	1,478	△20
(建物)	874	860	△14
(土地・その他)	624	618	△6
無形固定資産	42	40	△2
投資その他の資産	5	5	0
<b>繰延資産</b>	6	4	△2
<b>資産合計</b>	<b>3,197</b>	<b>3,193</b>	<b>△4</b>

### 流動資産:

❖ 営業活動による支出(223百万円)及び長期借入金の返済(28百万円)、短期借入による収入(300百万円)等により、1,664百万円となりました。

### 固定資産:

❖ 有形固定資産の取得による増加分(3百万円)と減価償却費による減少分(25百万円)等により、1,524百万円となりました。

## 財務概況(2)

### 【負債の部】

- ❖ 負債合計は、新規の短期借入(300百万円)等により、1,849百万円となりました。  
(固定負債に含まれる長期借入金残高:970百万円)

### 【純資産の部】

- ❖ 純資産合計は、当期純損失(297百万円)により、1,344百万円となりました。

### 【負債の部】

(単位:百万円)

	第12期 平成22年3月末	第13期 平成22年6月末	増減
<b>流動負債</b>	436	767	331
短期借入金	239	549	310
その他	197	218	21
<b>固定負債</b>	1,119	1,081	△38
<b>負債合計</b>	1,556	1,849	293

### 【純資産の部】

(単位:百万円)

	第12期 平成22年3月末	第13期 平成22年6月末	増減
資本金	5,714	5,714	0
資本剰余金	3,544	3,544	0
利益剰余金	△7,618	△7,915	△297
<b>純資産合計</b>	1,641	1,344	△297
<b>負債及び純資産合計</b>	3,197	3,193	△4

# キャッシュ・フロー計算書概況

(単位:百万円)

	第12期 第1四半期累計期間	第13期 第1四半期累計期間
営業活動によるキャッシュ・フロー	△255	△223
投資活動によるキャッシュ・フロー	△431	△5
財務活動によるキャッシュ・フロー	520	271
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額(▲:減少額)	△167	42
現金及び現金同等物の期首残高	956	1,014
現金及び現金同等物の期末残高	788	1,056

- ❖ 営業活動によるCF: 税引前四半期純損失(296百万円)等により、△223百万円となりました。
- ❖ 投資活動によるCF: 有形固定資産の取得(5百万円)等により、△5百万円となりました。
- ❖ 財務活動によるCF: 短期借入による収入(300百万円)等により、271百万円となりました。
- ❖ 現金及び現金同等物の期末残高: 期首残高1,014百万円に対し、期末残高は1,056百万円となりました。  
 なお、貸借対照表中の現金及び預金(1,517百万円)との差額は、預入期間が3ヶ月超の定期預金(460百万円)を含んでいないためです。

## 第13期通期 業績予想

- ❖ 第13期の売上高は、ジェイスの「保険適用に関する留意事項」の一つである施設基準の改定を受け、売上可能となる施設数が拡大することにより、増加する見込みです。一方、同製品の製造販売後調査等の費用の増加が予想され、当期純損失は、第12期とほぼ同程度と見込んでいます。

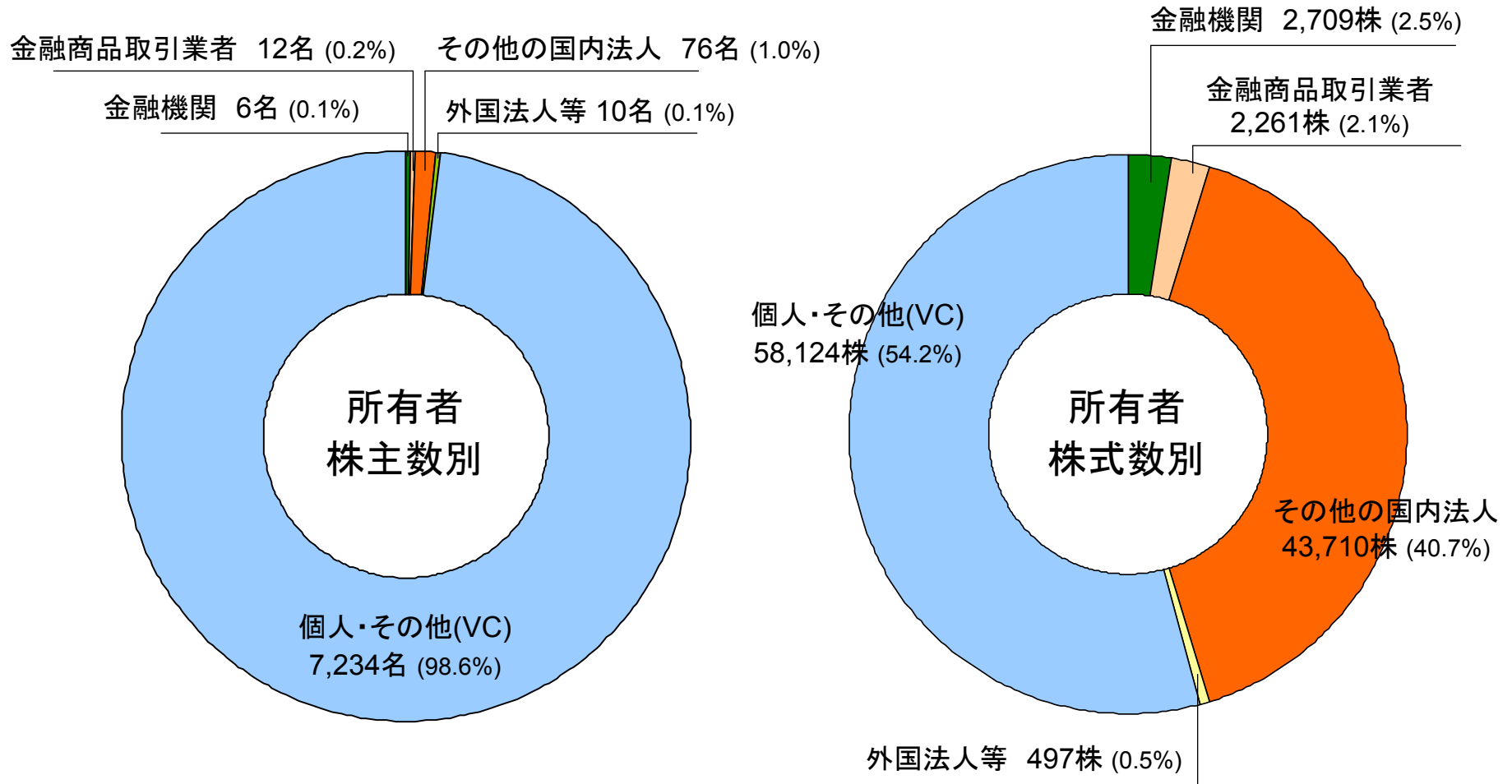
(単位:百万円)

	第12期 通期 実績	第13期 通期 計画	第12期比 増減
売上高	211	505	294
営業利益	△1,067	△1,033	34
経常利益	△1,096	△1,051	45
当期純利益	△1,099	△1,054	45

注) 通期計画は平成22年4月30日発表の「平成22年3月期 決算短信(非連結)」に基づく。



# 株式分布の状況



平成22年3月31日現在

株主数: 7,338名

発行済株式数: 107,301株

## 主要株主

❖ 大株主上位4名は、創業以来の株主です。

	<u>所有株式数(株)</u>	<u>割合(%)</u>
(株)ニデック	21,136	19.69
富山化学工業(株)	8,292	7.72
(株)INAX	4,492	4.18
三菱UFJキャピタル(株)	4,350	4.05
ジャフコ・バイオテクノロジー1号投資事業有限責任組合	2,015	1.87
中部飼料(株)	2,000	1.86
前田陽子	1,600	1.49
三井住友海上火災保険(株)	1,500	1.39
ガステックサービス(株)	1,500	1.39
小澤洋介	1,200	1.11
その他	59,216	55.18
合計	107,301	100.00

平成22年3月31日現在

# PIR活動について

当社のIR活動方針は『PIR活動』の推進です。すなわち、当社の企業理念である「再生医療の産業化」の実現のため、株主及び投資家へのIR活動に加え、世論形成を目的としたPR活動も積極的に展開します。

- ❖ 4月24日、インベスター・ネットワーク社主催の「株なびカンファレンス」に参加しました。ご自宅のパソコンからインターネット経由で視聴可能なライブ説明を行い、終了後もホームページ上でアーカイブ配信しています。これからも、より多くの投資家の皆さまに、当社の事業内容をご理解いただけるよう、工夫してまいります。
- ❖ 5月、英語版ホームページを改定し、海外向け情報を充実させました。また、6月には、海外IR活動となるNAEF2010(ノムラ・アジア・エクイティ・フォーラム2010@シンガポール)を実施しました。



NAEF2010@シンガポール

本開示資料は、投資者に対する情報提供を目的として将来の事業計画等を記載したものであって、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は、投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。

また、当社は、事業計画に関する業績目標その他の事項の実現・達成等に関しその蓋然性を如何なる意味においても保証するものではなく、その実現・達成等に関して一切責任を負うものではありません。

本開示資料に記載されている将来に係わる一切の記述内容(事業計画に関する業績目標も含まれますがそれに限られません。)は、現時点で入手可能な情報から得られた当社の判断に基づくものであり、将来の経済環境の変化等を含む事業計画の前提条件に変動が生じた場合その他様々な要因の変化により、実際の事業の状態・業績等は影響を受けることが予想され、本開示資料の記載内容と大きく異なる可能性があります。

株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング

〒443-0022 愛知県蒲郡市三谷北通6-209-1

経営管理部

TEL. 0533-66-2020 FAX. 0533-66-2019

